

健康ウオッチング

東陽病院 院長 伊藤 文憲

副腎の病氣

横芝町の皆さん今日は。前回まで腎臓について述べましたが、今回はその隣にある副腎についてのお話をします。

副腎は腎臓の頭側に存在している5〜6gの小さな臓器です。しかし小さいとはいえ全身に影響するホルモンを分泌する重要な臓器です。副腎は90%の皮質が10%の髄質を取り囲んだ形で構成されており、それぞれ特有の内分泌ホルモンを産生・分泌しています。

最初に副腎皮質についてお話しします。皮質では水分や電解質の代謝に係るアルドステロン(AL)、糖分の代謝や免疫、ストレスの防御に関するコルチゾール(COR)、思春期に分泌が更新し、年齢とともに低下する性ホルモン(アンドロゲン・AND)が主に分泌されています。副腎は豊富な血流があり、また離れた頭部の大脳の内にある

査を行います。副腎に病変が認められた時には、血管造影検査と局所のホルモンの直接測定により確定診断をして外科的な切除となります。

視床下部と下垂体という臓器からの遠隔コントロールを受けており、特に慢性のストレス下ではCORを最大限に合成分泌して生体を守るような働きがあります。また、ALは前回話した腎臓のネフロンを構成する糸球体の近くの組織から分泌されるレニンにより調節を受けており、副腎は小さな臓器ですが全身と密接な関連を持っています。

それぞれの過剰・欠乏により病気になります。AL過剰は原発性アルドステロン症としてコントロールの困難な高血圧や著明な低カリウム血症により手足の麻痺する周期性四肢麻痺などを起こします。CORの過剰は糖尿病や超肥満、骨粗鬆症などを起こします。これらは副腎皮質の組織が部分的に過形成や腫瘍性的変化(腺腫や癌腫)を起すことでホルモンを過剰に産生するために生じます。血液中のホルモン値の上昇がみられたら、腹部超音波検査やCT検

査を行います。副腎に病変が認められた時には、血管造影検査と局所のホルモンの直接測定により確定診断をして外科的な切除となります。

文芸

俳句

転勤の地にも馴染みて風薫る
万緑や揺るる吊橋山動く 浅野 茂子

普請場に演歌流るる風五月
潮の香を押し上げてくる夏岬 伊藤 敬子

あじさいの色に心も染りけり
キャンパスに乙女ほほえむ梅雨晴間 池田 逸子

シーサーに五月の風の吹きあたり
薄墨の九十九里沖梅雨最中 岡田 雅美

計はいつも唐突に来て葱坊主
しんがりにはひよこ組なり青田道 勝又 和徳

土筆野となりし畑の挽歌かな
万緑や川瀬の競ふ山の宿 向後 寛

青田風水小屋息を吹き返す
無人駅鉄路につづく茅花道 佐瀬 輝夫

鳥唄を聞けば梯梧の花の咲く
桑の実を食めば昔の月日かな 鈴木 繁子

新ジャガを嫁し娘の家にいそいそと
猫の恋キューイ柵の花かげで 若梅あやめ

薫風や八十路の坂を一步踏む
振り向けば笑顔がありぬ団扇風 鈴木 草庵

短歌

古い母を看取り続ける吾が友の
自もまた持病持つを思へり 吉岡 信子

たわい無き娘との会話に日曜の
午後のひとつ時みたまされり 田崎 尚美

血の絵は茄子を描きしものならむ
視力衰へ見定めがたし 永藤 滋

抱きあみどり児に笑み語りつつ
足取りかろき若き母親 八角 三枝

草を引く蠶が唄ふ「夏はきぬ」
緑の風が歌を乗せくる 萩原 信一

鉢巻きにハッピ姿の孫も踊る
運動会のソーラン節を 真家ふじ子

物事を突き詰めし人か終一記念館に
愛用の鉛筆鋭く細し 秋葉 悦子

口笛に郭公ワルツを吹く夫よ
梅雨晴れの朝鎌を研ぎつつ 佐瀬 初音

梅檀の小花は淡き紫に
煙りてみたり五月雨の中 西山満里子

すみ透る水の面に逆しまに
万緑写り耀ひあたり 宇井 ちい

御夫婦の齢ひは合はせて165歳
老いのふたりの暮しも久し 押尾 輝子

掛けたなら火元にあてよと娘の言へど
煮物の鍋をけふも焦がしぬ 鈴木 やす

書道展に入選いく度もせし夫の
病みて鉛筆の文字すら震ふ 斎藤つね子

